

編集後記

日本農学アカデミー総務企画委員 谷口 旭

平成17年10月から第20期日本学術会議が新体制で発足した。新体制の特色は、長年の7部制を3部制へ改組し、研究連絡委員会を全廃したことである。この改組で何を狙うのか、また、新体制で従来よりも意義の大きな活動をいっそう活発に展開するために、どのような審議体制の構築が検討されているのか、日本農学アカデミーの会員にとっても関心のあるところと思われる。さらに、農学者が農学固有の課題について討論を深化させるという点では、日本農学アカデミーの活動に対する期待が大きくなるであろう。そのような観点から、関係の深い方々に「論壇」へのご寄稿をお願いした。「論壇」最後の一文は編集子のものであり、正直を申せば、原稿の不足を補うものである。これは、研究教育船のことを取り上げたもので、本会報の記事としてはやや異質なものと思われるかもしれない。たしかに、普段農学の中心的話題にはなりにくいのが、研究教育船は教室、研究棟、農場等々と同様に必要不可欠な基盤教育研究施設であるということ、また、その船に今どういうことが起こっているのか、そういうことを本会会員の方々に知っていただきたいと思った次第である。

ところで、平成10年11月に創立されて以降、日本農学アカデミーの機構がおいおい整備され、会則もその都度改正されてきた。にもかかわらず、それにもなう英文会則の修正が遅れており、和英文間で齟齬が生じているというご指摘があった。しかし今期も、日本学術会議の改組に連動して本アカデミー会則の大幅改正があると予想されるので、それが確定した後、すなわち次号の会報で英文会則を改正修正する予定である。

